

春ノアDays

介護強化型（療養型）の病院に認知症の患者が増え始めると、看護・介護スタッフは何が困るのでしょうか。通常、入院患者のいる病棟では医療や看護を行うために、医師・看護・介護スタッフが決められた日間業務をきちんと時間割を作って仕事をしていきます。

当院の場合、医師は午前中に回診し点滴や投薬の指示を出しますし、担当の看護師たちはその指示をすぐに実行していきます。そして他の看護師は介護士と協力しながら看護・介護業務を時間割に沿ってきっちり仕事をしていきます。例えば一般病棟の患者さんであれば内科的疾患を抱えていたり、身体機能に衰えや異常があったとしても、スタッフの言うことはちゃんと聞いてくれるはず。ですから業務の流れも比較的スムーズに行きます。でも、これが認知症の患者さんとなるとそうはいきません。医療や看護・介護の時間割はあくまで病院の都合ですから、認知症の患者さんにとっては知ったことではないのです。機嫌の良いときはまだしも、悪いときはなかなか言う事を聞いてくれません。

病棟内にこんな患者さんが4、5人もいたとしたら、もはや医療や看護・介護の通常業務は総崩れになってしまいます。

こんな事情から認知症の患者さんは、一般病棟はもちろん療養型の病院や施設からも嫌われ、時には入院拒否にさえ会います。病院から嫌われ、施設にも入ってもらえない。そして家庭にも居場所がない認知症患者。私は強制入院になった患者さんのご家族が、土下座をしてこの病院においてほしい、と頼む姿を何度も目にしてきました。身体拘束なんて序の口です。病院においてもらえるだけでオンの字だったのです。

私はこの国の老人医療に疑問を持ち、その在り方に強く反発をしてみました。そしてそんな医療から老人を引き離すことを目指して、看護・介護強化型の病院を幾つか作ってきました。しかし認知症患者のご家族が土下座をする姿を目の当たりにして、もし自分に、まだこの国の老人医療に反発する力があるのなら、次は必ず老人性認知症の専門病院を作ってやろう。そしてその病院は、国の方針に逆らっても『入院期日を設けずに、最後の刻（とき）まで穏やかに』過ごさせてあげたい。いつかそんな病院を絶対に作ってやる。そしてその病院では絶対に患者への『身体拘束はさせない』『延命的治療もやらない。もちろん患者に苦痛を与えるだけの医療もやらない』。高齢による自然な衰えで車椅子や寝たきりになる以外『医療によつての寝たきりには絶対にさせない』。そしてその人が『最後の刻』を迎えるまで、『その人らしく』穏やかに過ごせるよう、医療・看護・介護を充実させて行く…。

今から18年前、川越セントノア病院を、15年前には春日部セントノア病院を創立した時、私は全ての職員に、「実行できない理念など意味がない」。だからどんなことがあってもこの『四つの理念』を実行してほしい。そしてこの理念を守り抜くよう、何度も何度も繰り返してお願いをしてきました。

最初は戸惑いを感じていた職員もいたようですが、看護・介護職員たちの見事な働きで、今では『身体拘束』など職員の間では話題にすらならないほど浸透しています。

さて私事で恐縮ですが、私も既に後期高齢者の仲間入りをしています。そろそろこの病院の将来を後進に譲る日も遠くはない、と心得ています。しかしこのセントノア病院がある限り、私が掲げた4つの理念だけは忘れないでほしいと全職員に心から願っています。さらにこの『事務屋の独り言』も今回で153回になりました。もうそろそろ終わりにしたいと思っています。長い間読んで下さったご家族の皆さんには、本当に感謝をしています。有難うございました。

『四つの理念2』



常務理事 事務局長 瓦井 洋



『患者さん・ご家族の想いに寄り添う』

2病棟 看護師長 渡辺 弘子



病院を取り囲む桜の木はすっかり葉桜となり、新緑を増しています。

去る3月26日、満開となった桜を全患者さんに楽しんで頂くとうと医師をはじめ全職員で患者さんを院庭へ移動しました。その日は暑いくらいの日差しで、麦わら帽子をかぶっていても少し日焼けするほどでした。桜を見ながらお昼ご飯を食べ、「さくらさくら」を合唱したあと、各病棟対抗ミニ運動会が行われました。じゃんけんゲーム、パン食い競争、玉入れなど皆の顔から笑顔がこぼれ、歓喜が沸き「うぐいすがいたよ」などの声も聞かれ、楽しいひと時を過ごしました。患者さんの中には、重症な方もおられ、ベッドごとでなければ庭に出ることが出来ない方がいらつしやいます。「もしかしたら今年が最後の桜になるかも」という思いで、点滴台と酸素ボンベを押しながら、テラスで参加しました。その患者さんからは、感想は聞かれませんが、暖かな風と皆の歓声は届いたのではないのでしょうか…。

入院されている患者さんの多くは、自分の意志を上手く伝えることができません。当院では一人の患者さんに一人の看護師と一人の介護士が担当する受け持ち制を取っています。フエースシートから情報収集し、その人の生活歴、性格、趣味、既往歴から現在までの経過を頭に入れ、患者さんにとって今、必要なケアは何かを受け持ちは考えます。

例えば：

- ・長時間の車イス乗車は身体的に負担なため、食事直前に離床していただく。
- ・言葉だけではうまく伝わらない患者さんには、言葉とジェスチャーで伝えると、75kgの患者さんも協力してくれて職員一人でも車イスに移乗できるテクニク。
- ・円背になっている患者さんが安楽に臥床できる体位の工夫。
- ・食事を早食いする患者さんには、小さいスプーンでゆっくり食べていただく。
- ・残存機能を維持するため、出来るお手伝いをやって頂く。
- ・などなどすべて受け持ちからの声で共有しケアに生かします。高野先生からも『受け持ちとしてどうしたい？』など投げかけられます。

2病棟の今年度看護部目標は、「受け持ちとしての意識を高め、患者さん・ご家族の想いに寄り添う」です。受け持ちが一番の理解者という関わりが出来ればと思っています。



ご家族の方には、新型コロナウイルスの感染予防に、ご協力いただき感謝申し上げます。

職員も一丸となって体調管理、手洗いの徹底、不要不急の外出を控え、対応しています。

また、できる限る患者さんの情報は伝えたいと思っております。

引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

PSWだより

精神保健福祉士 渡邊 正基



新型コロナウイルスの感染拡大を防止するにあたり、面会を制限する等、ご家族の皆様にはご迷惑とご不便をおかけしております。

日本中が蜂の巣を突いたように大騒ぎをしていますが、患者さんたちは変わりなくお元気です。これから気候も暖かくなり外に出るのは気持ちの良い季節になりますので、現状を見ながら患者さんたちを外に連れ出すことが出来ればと思っております。

ご家族の皆様もご自身の体調管理にはどうぞお気を付けください。また当院の談話室に患者さんご家族の皆様との賑やかな声が飛び交う日が来るように願って、1日でも早く収束するように頑張っていきたいと思います。



サラコーナー



わたしもね(*v*)

花見に行っても

いいから!!(^^)!

お花見会



満開の桜 咲き っぱいの笑顔 優しい春の陽ざしと一緒に
おしるこ、パン食い競争、玉入れ、じゃんけんゲーム…と
患者さんも職員も桜を忘れて…



2病棟 看護副主任

大西 景子

新型コロナウイルス感染拡大の波に飲まれた大変な時期、皆さまはどうお過ごしでしょうか。

東京オリンピックは延期となり、様々なイベントは中止。緊急事態宣言が出された今は外出自粛により、日本中がひっそりと息を潜めているような状態です。

このような中、日々感じるがあります。それは当たり前前に過ごしていた日常生活の大切さ、有り難さです。意識せず普通にしてきたことが制限されると、不自由さをととても感じます。

ですが、不自由だと感じストレスを溜めて過ごすのは損した気持ちになりませんか？

なので、私は少しでも楽しく過ごせるように努めています。私の好きなアーティストは『幸せはなるものではなく感じるものだ』と言っていました。この制限のある生活下でも幸せや楽しみを感じることは自分の思う以上にたくさんありました。私の場合、家族との時間が多く取れること、ご飯づくりに時間をかけられること、お昼寝もできること、などです。面白いものを見て笑い、美味しいものを食べて嬉しくなり、楽しいことを考えてニヤニヤします。今は再び以前の生活に一日でも早く戻れることを願いながら、自分の出来るコロナ対策をしっかりとしていきたいです。そして毎日の幸せや楽しみを感じていこうと思います。



2病棟 介護福祉士

酒井 紀美子



父が生前言った言葉『無理をするな』優しい表情で、つねに私や孫たちに言っていました。その優しい顔、口調、声のトーンが今でも頭の中にハッキリ覚えています。その一言で心が穏やかにもなり、『ホッ』と安心できました。

患者さんとコミュニケーションをとる時その時々相手の心境にタイミングが合う場合とそうでない場合、反応が違います。気持ちの変化を感じる瞬間、目の動きやトーン、仕草など様々ですが、患者さんの心理が垣間見える気がします。「人と向き合う事は気持ちを合わせる事」。私の場合すぐ出来る事は「笑う」事、まずは自分が楽しい気持ちでいる事です。他人は自分を映す鏡、笑顔に勝るものなし！と言いますが、その通りだと思います。私が父に「ホッコリ」させてもらったように、患者さんにも「ホッコリ」してもらえようように日々接していきたいと思っています。



さらカレンダー

5月	2020 6月						7月																						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

日	月	火	水	木	金	土
	1 先勝	2 友引	3 先負	4 仏滅	5 大安	6 赤口
7 先勝	8 友引	9 先負	10 仏滅	11 大安	12 赤口	13 先勝
14 友引	15 先負	16 仏滅	17 大安	18 赤口	19 先勝	20 友引
21 大安	22 赤口	23 先勝	24 友引	25 先負	26 仏滅	27 大安
28 赤口	29 先勝	30 友引				

5月の予定

◆誕生日会&母の日

1病棟 5月11日(月)

2病棟 5月13日(水)

3病棟 5月15日(金)

各病棟デイルーム14:00~



スタッフ紹介

栄養科

くまがい てつ 熊谷 徹

去年の10月頃に入職し、早くも半年になります。以前は委託会社に務めており、病院や特養などで食事を提供していました。周囲のスタッフと助け合いながら、日々の業務に精を出しています。料理を作ることが好きで、この業界に就職しました。お菓子作りも大好きなので、厨房付近で甘い香りがしたらおそらく私が何かしています・・・！患者様や、病院職員の皆さんの「ごちそうさまでした」や「おいしかったです」の一言が何よりの励みになりますしより一層自身を奮起させます。末永くお世話になりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

